

もの がたい マルティン・ルター物語、

だい ぶ
第1部

マルティン・ルターは、1483年11月10日、ドイツの
アイスレーベンで、鉱山労働者の 家族のもとに 長男として
生まれました。両親は彼を 神様に ささげ、トゥールの
聖マルティヌスに ちなんで、マルティンと 名付けました。
聖マルティヌスは、4世紀の フランスで キリスト教に
改宗した 兵隊です。聖マルティヌスは、人々に イエスの
愛を 伝え、古い 異教徒の 寺院を 破壊しました。

主よ、わたしたちは
この子を あなたに ささげます！



マルティンは、5才で 学校に 通い始めました。
先生は みんな、ローマカトリックの 修道院で
暮らす 修道士でした。

マルティンの 母親には、食べさせなくては
ならないたくさんの 子どもが いました。

子どもが 大勢だから、食べ物 が 十分 なくて
大変だわ。

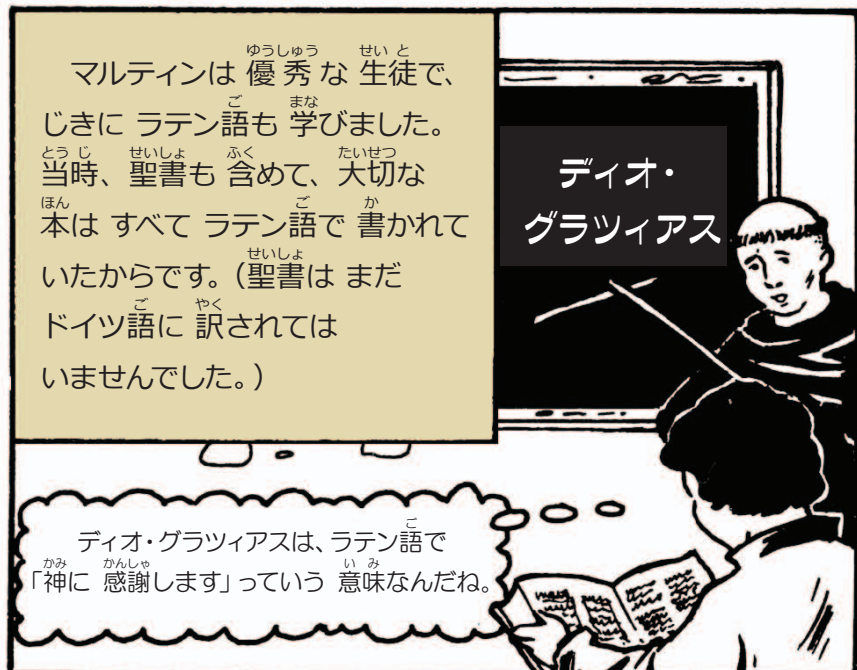


自分の 食事代と 教科書代を
かせぐために、マルティンは しばしば
通りで 歌を 歌ったりもしました。

マルティンは 優秀な 生徒で、
じきに ラテン語も 学びました。
当時、聖書も 含めて、大切な
本は すべて ラテン語で 書かれて
いたからです。(聖書は まだ
ドイツ語に 訳されては
いませんでした。)

ディオ・
グラツィアス

ディオ・グラツィアスは、ラテン語で
「神に 感謝します」という 意味なんだね。



しゅうどうしは こどもたちに、し 死んだ とき 天国に
いきたいなら、つみ 罪を つぐなうために よい 行いを し、
せいと 聖徒たちに いの 祈らなければ ならないと おし 教えました。



かみ 神の おさば お裁きを う 受けたくなかったら、
つみ 罪を おか 犯しては いけないよ。

マルティン・ルターは いつも、かみさま 神様に
おこられているように かん 感じました。かみさま 神様について
べんきょう 勉強 は しましたが、かみさま 神様が あい 愛だとは
し 知らなかったのです。(ヨハネの 第一の 手紙 4:8)



かみさま 神様って、すごく
とお 遠い そんなざい 存在なんだなあ。

かみさま 神様に ちか 近く かん 感じたのは、ひとり 一人で もり 森の なか
ある 歩いている とき 時だけでした。



すべてが きれいだな。まるで、
かみさま 神様が そこらじゅうに いるみたいだ！

マルティンは、ある 歩きながら よく うた 歌を うた 歌って
いました。ある ひ 日、きょうかい 教会の そばを とお 通りかかると・・・



うた 歌を うた 歌っていれば、かな 悲しくない。

おい、その おわが 若いの。

きみ 君は、だれに うた 歌を
おそ 教わったのかね？



だれにも おそ 教わったことは
ありません。

ただ、うた 歌うのが だいす 大好きなんです！
とお 通りで うた 歌って、よく こぜに 小銭を
もらったりも します。

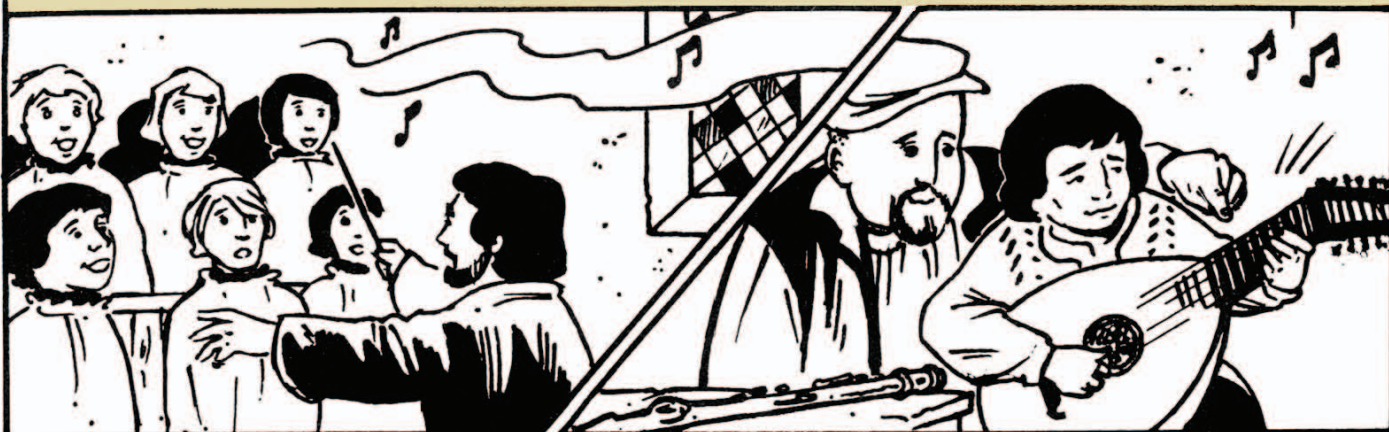


わたしの がっしょうだん 合唱団で
うた 歌う き 気は ないかね？



はい、よろこ 喜んで！

そこで マルティンは、^{うた}歌うための ^{さいしょ}最初の ^{くんれん}訓練を ^う受けました。 ^{あとあと}後々に ^なって、 ^{かみさま}神様は ^{それ}を ^{すばらしい}素晴らしい ^{ほうほう}方法で ^{もち}用いられること ^になります。マルティンは、フルートや リュートの ^{えんそう}演奏の ^{しかた}仕方も ^{まな}学びました。リュートは、ギターに ^に似た ^{げんがっ き}弦楽器です。



マルティンは、とても ^{ゆうしゅう}優秀な ^{せい と}生徒でした。
エアフルト大学に ^{だいがく}行って、^い弁護士に ^{べん ご し}なるための ^{べんきょう}勉強も ^ししました。

マルティン、^{きみ}君は ^{ものおぼ}物覚えが ^{はや}速いから、^{じきに}じきに ^{ほうりつ}法律の ^{すべて}すべてを ^し知りつくすように ^{なる}だろうよ。



ありがとうございます、^{きょうじゅ}教授。

ある日の ^ひこと、^{だいがく}大学で、マルティンの ^{じんせい}人生を ^か変えてしまう ^{おお}大きな ^{で き ごと}出来事 ^がありました。



ふ〜ん。^{せいしよ}聖書か。きっと、^{きょう み ぶか}興味深い ^{ほん}本 ^{なん}だろうなあ。^よ読んでみるか。

「^{かみ}神が ^みみ子を ^よ世に ^{つか}かわされたのは、^よ世を ^{さば}く ^{ため}ためでは ^{なく}なく、^みみ子によって、^{この}この世が ^{すく}救われる ^{ため}ためである。」
(^{こう ご やく}口語訳聖書、^{ヨハネ}ヨハネによる ^{ふくいんしよ}福音書 3:17)



すごいぞ！ つまり、^わぼくが ^{こんな}こんなに ^{わる}悪くても、
^{すく}救われる ^{って}いう ^{こと}こと ^{なん}なんだろうか。

だけど、^いどうして ^{いま}今まで、^{せいしよ}聖書に ^かそう ^書書かれている ^{こと}ことを ^{だれ}だれも ^{おし}教えて ^{くれ}くれなかつた ^んんだらう？



それ以来 ^{いらい}マルティンは、^{せいしよ}聖書を ^よ読んで、^{かみさま}神様の ^{こと}ことや、^{どう}したら ^{かみさま}神様を ^{よろこ}喜ばす ^{こと}ことが ^{できる}のかを、
^しもっと ^{ふか}知りた ^いいと ^{ねが}深く ^願願う ^{よう}ように ^なりました。

さらに進んだ勉強を
続ける前に、マルティン・
ルターは、家族や友人と
短い休暇を過ごして
いました。

ハッハ!

君は法律の本にも長けているが、リュートの演奏も
それと同じぐらい素晴らしいよ!



息子は、りっぱな学者になったよ!
わしでさえ、息子に「先生」と
呼ぶくらいだ。

ハッハハハ!

光栄なことですよ。



マルティンに乾杯! ドイツ一の
弁護士になれるように!

乾杯!
乾杯!

ありがとう、みなさん。



けれども、神様には、マルティンのために別のご計画があったのです。
大学にもどる旅のとちゅうのことです。

心配するな、マルティン。ただの
夏嵐さ。無事に
帰れるよ。



どこか、雨宿りできる場所を見つけないと!

その時、雷が落ちたのです!





ああ・・・



フ란ツ? フ란ツ!

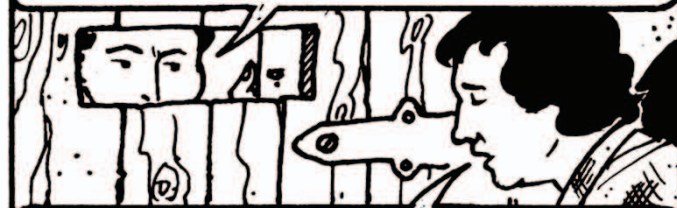
なん 何てことだ! ^し死んでいる! ^{かみ}神が
おいかりなのに ^しちがいない!



^{ぜん}善を ^{おこな}行って ^{かみ}神に ^{かみ}おゆるしを
いただかないと。神よ、わたしは
^{しゅうどうし}修道士になることを
^{やくそく}約束いたします。

というわけで、マルティンは^し死を おそれ、
^{じぶん}自分の ^{かぞく}家族も ^{しょうがい}生涯の ^{しごと}仕事も ^す捨てて、
エアフルトの ^{せい}聖アウグスチノ ^{しゅうどうかい}修道会に
^{はい}入ろうと ^{けっしん}決心しました。

^{なん}何の ^{よう}ご用かな?



^{しん ぶ さま}神父様、あなたの ^{かみ}あわれみと 神の
あわれみを ^いいただきとうございます。
わたしは、^{しゅうどうし}修道士に ^{なり}なりたいのです。

^{しゅうどういん}修道院での ^{せいかつ}生活は、とても ^たきびしいものだ。食べる物は
^{すく}少なく、^{すいみん}睡眠時間も ^{みじか}短い。何時間も ^{なんし}祈り続け、^{いの}たくさんの
^{しゅうろうどう}重労働を ^{しな}しなければ ^{なら}ないのだよ。そのような
^{せいかつ}生活をする ^{かくご}覚悟は ^{ある}あるのかね?



はい、^{しん ぶ さま}神父様。できる限りの ^{かき}ことを ^{する}するつもりで ^{ござ}います!

マルティンは、^よ良い ^{おこな}行いを ^{すれば}すれば
^{かみさま}神様の ^{あわれみ}あわれみを ^いいただけた ^{おも}と思って
いました。そして、^{いっしょう}どんなに ^{めい}一生けん命
^{はたら}働いたことでしょうか! ^い言われた ^{こと}ことは
もちろんの ^{こと}こと、^{いじょう}それ以上の ^{こと}ことを
^{たくさん}したのです。



マルティンは ^{いちど}一度に ^{なんにち}何日もの
^{あいだ}間 ^{だんじき}断食を ^{つめ}して、^{いし}冷たい ^{ゆか}石の ^い床に
^{よこ}横たわり、^{なんし}何時間も ^{いの}祈りを
となえました。



^{ぜんのう}全能の ^{かみ}神よ、^きどうか ^きお聞ください!

^く来る日も ^く来る日も、
^{ほどこし}ほどこしを ^{もと}求めて ^{ある}歩き
^{まわ}回ることも ^{あり}ありました。



どうか、^{ねが}ほどこし²を
お願いいたします!

^{まず}2貧しい ^{ひと}人たちに
^{かね}あげるための ^おお金

マルティンは、ほかの^{しゅうどうし} 修道士たちに、いつも 自分の^{し ぶん つみ} 罪について
話^{はな}してばかり いるので、みんな、うんざりしてしまいました。

兄弟^{きょうだい}よ、わたしは 全く^{まった} ひどい 罪人^{つみびと}なんだ！ 告白^{こくはく}しなくては。



マルティン、お願いだから、もう そのことは 話^{はな}さないでくれ。

何年^{なんねん}も たってから、
マルティンは こう 語^{かた}っています。
「もし 修行^{しゅぎょう} することで 天国^{てんごく}に
行けるものなら、わたしこそ、
その 修道士^{しゅうどうし}だった。」
けれども、マルティンが 完^{かん}ぺきに
なろうと すれば するほど、
自分が どれほど 望^{のぞ}みの ない
罪人^{つみびと}かが わかりました。どんなに
がんばっても、自分を 救^{すく}うことは
不^ふ可^か能^{のう}だったのです！

ある日^ひ、マルティンは 修道院^{しゅうどういん}の 院長^{いんちょう} さんに
自分の 心^{し ぶん こころ}を 打ち明^{う あ}けました。

神父^{しんぶさま}様。わたしは どうしても 心^{こころ}の 安^{やす}らぎを
見^みつけることが できません。神^{かみ}は、わたしに
おいきりなのです！



ばかなことを 言^いっては いけない、マルティン 修道士^{しゅうどうし}。
神^{かみ}は、君^{きみ}を 愛^{あい}しておられる！

聖書^{せいしょ}には、こう 書^かいてあるんだ。「もし わたしたちが
自分の 罪^{し ぶん つみ}を 告白^{こくはく}するならば、神^{かみ}は 真^{しん}実^{じつ}で 正^{ただ}しい
方^{かた}であるから、その 罪^{つみ}を ゆるしてくださる」とね。
(口語訳聖書、ヨハネの 第一の手紙 1:9)



そろそろ、君^{きみ}も 自分^{し ぶん}の 聖書^{せいしょ}を 持^もつ 時^{とき}が
来^きたようだね。これは、君^{きみ}への おくり物^{もの}だよ。
君^{きみ}自身^{しん}の 聖^{せい}なる 言^{こと}葉^はだ！



ありがとうございます、ヨハン神父^{しんぶ}！

真理^{しんり}に うえた マルティンは、ラテン語^ごの 聖書^{せいしょ}を 読^よむのに
ぼつと 没頭^{ぼつとう}しました。そんな ある日^ひ、まるで 光^{ひかり}が パツと かがやいた
かのごとく、ある節^{せつ}が 目^めに 入^{はい}ってきました。

「義人^{ぎじん}は 信^{しん}仰^{こう}によって 生^いきる。」
(新改訳聖書、ローマ人への 手紙 1:17)



ふ〜む。つまり、信^{しん}仰^{こう}だけが わたしを 救^{すく}えるという
ことだろうか？ (続^{つづ}く)

もの がたり マルティン・ルター物語、

だい 2 部

マルティンは、ザクセン^{しゅう}の
フリードリヒ公爵^{こうしやく}によって 建てられた
ヴィッテンベルク大学^{だいがく}に、大学 教授^{だいがくきやうじゆ}として
送^{おく}られました。生徒^{せいと}たちは、マルティンが
教^{おく}える 聖書^{せいしよ}の 講義^{こうぎ}に 深い 興^{ふか} 味^{きよう み}を
示^{しめ}しました。そのころ、聖書^{せいしよ}は 祭司^{さいし}にしか
読^よまれていなかったからです。

これは、実に おお 大きな 特権^{とっけん}です！



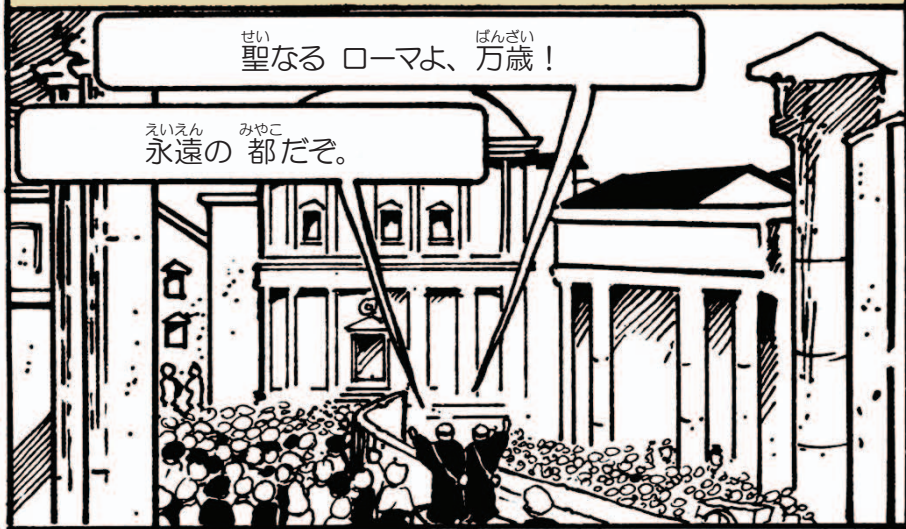
アアメン！

1510年^{ねん}に、ルターは ある
任務^{にんむ}で ローマ^{はけん}へ 派遣^{はけん}されました。

6 週^{しゅうかん}間の 徒歩^{と ほりよう}旅行^{のち}の後^つ、ついに ローマ^つに たどり着きました。

聖なる ローマ^{せい}よ、ばんざい
万歳^{ばんざい}！

えいえん みやこ
永遠^{えいえん}の 都^{みやこ}だぞ。



当時^{とうじ}、ローマ^{しんせい}は 神聖^{ばしよ}な 場所^{ばしよ}であると
考^{かんが}えられていました。教会^{きやうかい}の 頭^{かしら}である
法王^{ほうおう}が 住^すんでいたからです。ローマは、
記念物^{きねんぶつ}や 聖像^{せいざう}で 満^みちていました。
人々^{ひとびと}は 神様^{かみさま}を 喜^{よろこ}ばせようとして、
そういった もの^{もの}に ひれふして
いたのです。

これは、十字架^{じゆうじか}から と
取^とられたものである。

わたしが これを ^み 見^きに来^きたことを、
神^{かみ}は ^{よろこ} 喜^{よろこ}んでくださるだろう。



このような 記念物^{きねんぶつ}を 見^みるために お金^{かね}を はらって やって来た 人々^{ひと}たちは、自分の 罪^{つみ}のために 煉獄^{れんごく}で
あまり 長^{なが}く 苦^{くる}しまなくて すむと 信^{しん}じられていました。煉獄^{れんごく}とは、天国^{てんごく}と 地獄^{じごく}の 間の「待合室^{まちあいしつ}」みたいな
もので、そこで 自分^{じぶん}の 罪^{つみ}を つぐなえると 信^{しん}じられていたのです。



マルティン、ここローマには、イエスが お生まれになった
時に ねていた 飼葉おけの わらが 1本 あるそうだよ。
それから、モーセが 見たという 燃える 柴の 枝も
あるそうだ。それだけじゃ ない。イエスが 天に 召された
時に 立っていた 石も 1個 あるという 話だ!

ローマにある 教会を すべて
訪ねなくては。神が わたしたちに
あわれみを ほどこし、祝 福して
くださるようにね。

けれども、ローマは「聖なる」都とは 全く かけはなれた 場所でした。マルティンはいろいろと
見たり 耳に したりしているうちに、とても 悲しく、そして 腹立たい 気持ちに なってきました。



どうして 祭司たちは、あんなに
金持ちなんだろう?



ひとびと 人々は、とても 貧しいと
いうのに。



早く しろ! わたしは この
祭だんの 前で 主の 祈りを
50回 となえるために、金を
もらっているんだからな。



きっと、サン・ピエトロ大聖堂が 世界一
壮大な 教会に なるだろうね!

だけど、それを 建てる お金は
どこから 来るんだ?



あれは、だれだろう?
どこかの 甘やかされた 王子かい?

ヨーロッパの 人たちの ふところからさ。彼らは、
法王が 神のような 存在だと 信じているんだ。

ひざまずくんだ、おろか者! あの方こそ、
教会の 頭である 法王、ローマ 教皇だぞ。

ローマ^{きょうこう}教皇だったなんて!

主^{しゅ}よ、おゆるしてください。

さて、今度は^{こんど}ローマで^{もっと}最も^{せい}聖なる^{ばしょ}場所、^{しんせい}神聖な^{かいだん}階段に^い行かなくては。

この^{かいだん}階段は、ピラトの^{きゅうでん}宮殿の^{そと}外で^{さま}イエス様が^た立った^{かいだん}階段で
あると^{つた}伝えられており、それが^{はこ}ローマに^{はこ}運ばれてきたのです。
巡礼者^{じゅんれいしゃ}たちは、煉獄^{れんごく}にいる^{ゆうじん}友人や^{しん}親せきが^{はや}早く^で出られるように
いの^{いの}祈りながら、ひざをついてこの^{かいだん}階段を^{のぼ}上るのです。

けれども、マルティンが^{その}その^{かいだん}階段を^{のぼ}上っていると、^{なん}何度も^{なん}何度も、^{こゑ}こういう^{こゑ}声が^{きこ}しました。

わたしたちの^{ふさい}負債をも^{てん}天に^{います}います^{われらの}われらの^{ちち}父よ。
おゆるしてください。

わたしたちの^{ひつ}日々の^{くつ}くつ^をを...
食物を...

義人^{ぎじん}は
信仰^{しんこう}によって
生きる!

兄弟^{きょうだい}、これは^{ばかばかしい}ばかばかしいよ! もう、うんざりだ! 「義人^{ぎじん}は^{しんこう}信仰によって
生きる」のだから。(ローマ人への^{びと}手紙^{てがみ} 1:17) ドイツに^{かえ}帰ろう。

マ、マルティン^{しゅうどうし}修道士?

ドイツに もどった マルティン・ルターは、引き続き 大学で 教え、神学の 博士号を 授けられました。

それなのに、マルティンは
まだ、神様の 最も 大切で
かつ 単純な 真理について、
はっきりと 分かって
いなかったのです。

おめでとう、ルター博士。

ありがとうございます。

けれども ある日、トイレに すわっていると・・・

「あなたがたの 救われたのは、実に、恵みにより、
信仰に よるので ある。それは、あなたがた自身から
出たものでは なく、神の 賜物である。決して 行いに
よるのではない。

それは、だれも 誇る
ことが ないためなので
ある。」(口語訳聖書、
エペソ人への手紙 2:8-9)

恵みだって？

それなら、救いは 賜物なのか！ 良い 行いや
聖徒たちに 向かって 祈ることでは 得られないんだ。
ただ 神の 恵みによってのみ、救われるんだ。

すごいぞ！

まるで 霊が 新しく 生まれ変わったみたいに
感じるぞ！²

この 聖句が、わたしのために パラダイスへの
門を 開けてくれたんだ！ 主イエスよ、
愛しています！

よくじつ だいがく
翌日、大学では・・・

せいしよ おお き ひとつ ひとつ せつ ちい えだ
聖書を、大きな 木だと しよう。一つ一つの 節は、小さな 枝だ。
わたしは、その 枝を 1本1本、すべて ゆさぶった。そして、
すばらしいことを 発見したのだ。



つまり、わたしたちは 信仰によって 救われるのであり、それ以外の 何物でも
ないということだ。救いは 神からの おくり物であり、自分たちの
行いによって 得られるものではないということだ。

それからというものの、
マルティンは 罪からの
救いが 神の 恵みによる
おくり物であることを 教え
始め、大勢の 生徒が それを
信じました。マルティンは、まず
聖書を読み、その後 彼らの
母国語である ドイツ語で
その 意味を 説明したのです。

かみ
神は わたしたちを とても 愛しておられるので、わたしたちの 代わりに
死ぬために、ご自身の み子である イエスを つかわしてくださった。だから、
イエスが わたしたちの 罪の つぐないを すべて してくださったのだ!

いま
今まで わたしたちは、自分の
罪からの 救いを 得て 天国に
行くためには、善人でないと
いけないと 教わってきたのですが。



せいしよ すく もの か
聖書に、救いは おくり物であると 書かれているのだよ。「罪の 支払う 報酬は 死である。しかし 神の
たまもの 賜物は、わたしたちの 主キリスト・イエスにおける 永遠の 命である。」(口語訳聖書、ローマ人への 手紙 6:23)

きみ ひとり ひとりに
君たちの 一人一人が、個人的に
神を知り、愛することが できるんだ。

わあ、それは
すばらしい!



なが くら よる あと あたら
長くて 暗い 夜の 後、ついに 新しい
ひが 来たんだ! わたしたちは
かみ あい
神の 愛について、みんなに
つた
伝えなくては ならない!



そういうわけで、マルティン・ルターは、
まさに それを したのでした! (続く)

もの がたり マルティン・ルター物語、

だい ぶ
第3部

ローマの サン・ピエトロ
大聖堂を 建てるのに 必要な
ばく大な 費用を まかなうため、
ローマ法王レオ10世は、ヨハン・
テツツェルという 修道士に、
ドイツ中を 行きめぐって 人々に
罪の ゆるしを 売る 権限を
与えました。教会に 十分な
献金をした 者は、自分 あるいは
家族の 罪が ゆるされると
言ったのです。

まっす 真っ直ぐ 天国に 行けるのは、聖人だけだ。完ぺきで なければ、
煉獄と 呼ばれる おそろしい 場所で、自分の 罪のために
何千年も 苦しまねば ならんのだぞ！



煉獄の 苦しみと 火から
のがれて 真っ直ぐ 天国に
行くために、君は いくら
はらう つもりかね？

いくらでも、
おおせの 通りに！



ローマ法王様が、この 手紙を 買う 者には だれでも、
ゆるしを 授けようと お約束してくださったのだ。

1枚 いただきます！・・・
いや、2枚！

コインが チャリンと 音を 立てて
箱に 入ると、靈魂が 煉獄から
飛び上がる。



ルターの友人であり、助手でもある メランヒトンが、あることを知らせに やって来ました。

テツツェルという 修道士が、国中で 罪のゆるしを 売って 回っています。



何という ことだ! 救いは 高過ぎて、だれも そのために 十分な お金などは 払えないはずだ。それを、イエスが 無料で 与えてくださったというのに。

その 高ぶった 修道士
テツツェルに、
思い知らせてやろう。



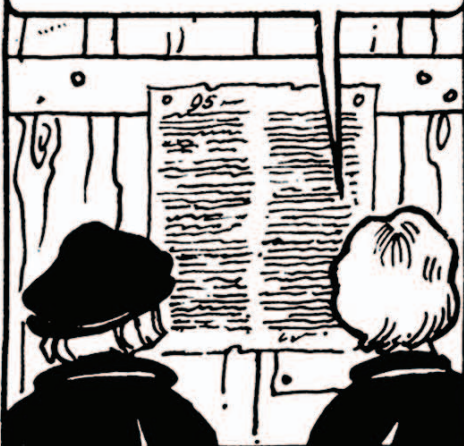
その夜 ルターは、教会が 人々に、救われるための お金を はらわせる ことなど できない 理由の リストを 書きました。そして、それぞれの 項目に 番号を つけると、全部で 95に なりました。



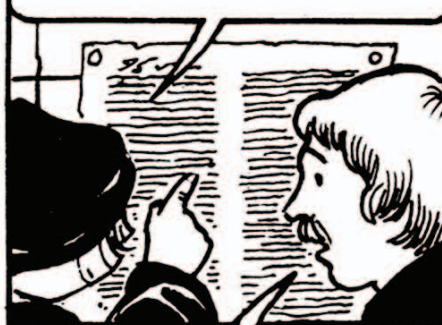
翌日の 1517年10月31日、ルターは 95項目から なる 文書を 教会の ドアに 打ちつけました。



天国に 行くのに、お金も、
良い 行いも 必要ないそうだ。
信仰だけで よいと
書いてあるよ!



人は ゆるしを 得るのに 神と
かけ引きする 必要は なく、
それは 無料だって?!



こんなことを 言って、ルターは
殺されるかもしれないぞ!

この 文書は、「95カ条の
論題」として 知られるように
なりました。まもなく それは
翻訳され、たった 4週 間のうちに
印刷されて ヨーロッパ中に
出回ったのです。ルターの 友人の
一人は、その 様子を「まるで
天使たちが それを 伝える
使者だったかのよう」だと
言ったくらいです。



かみ ことば しんり はんたいせいりよく かか つた つづ
神の み言葉の 真理は、 反対勢力 にも 関わらず、 どんどん 伝わり続けました。

そして とうとう、それは 法王の
みみ はい
耳にも 入りました。



これは、よっぱらいの ドイツ人が
か
書いたに ちがいない!

いいえ、法王様。彼は 大学 教授です。そして、
おおぜい ひと おし したが
大勢の 人が その 教えに 従っています。



わたしが 罪を ゆるすことが できないなどと、よくも
そんな たわけた事を! 彼を ローマに 連れてまいれ。



けれども ルターは ローマに
つ 連れて行かれずに、
ドイツでも 権力のある、
ザクセン州の
フリードリヒ公爵に
よって 支持され、
まも 守られました。

フリードリヒは、ルターが
ローマではなく ドイツで
さいばん 裁判に かけられるようにと
ようきゅう
要求 したのです。そのころ、法王レオ10世は
こうしゃく しじ ひつよう
公爵の 支持が 必要だったので、ルターがドイツで
さいばん 裁判に かけられることに どうい
同意 しました。

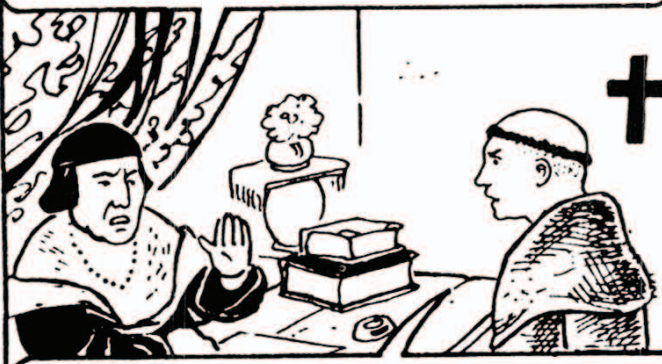
ルターは 何度も 教会の 高い 地位の
し どうしゃ よ だ かんが か
指導者に 呼び出されて、 考えを 変えるように
せつとく
説得 されました。

ルター博士、君の 言っていることは まちがって
いと めと 認めたまえ。



ですが、わたしの 教えは、聖書に 書かれている
ことからであると しょうめい
証明 できます。

なに しょうめい
何も 証明など できません! 法王レオ10世が、
きみ
君は まちがっていると おっしゃっているのだ。



法王様は、神の み言葉よりも 上に 立つ 方では
ありません。み言葉の 下で ございます。

法王様は、初代の 使徒たちのような そぼくさに
た
立ちもどるべきで ございます。



もう たくさんだ、ルター! これ以上 聞きたくない!

大学^{だいがく}にもどったルターは、
引き続き、新しく発見した
教義^{きょうぎ}を教え続けました。

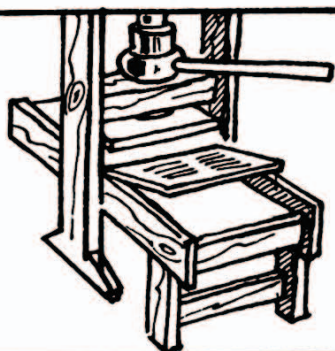
そして、神^{かみ}が自分^{じぶん}に示^{しめ}された
こと^{こと}を説明^{せいめい}するために
多くのパンフレットを
作りまし。そしてそれは、
キリスト教世界^{きりすとけい}の至^{いた}る所^{ところ}で
印刷^{いんさつ}されたのです。

ルター博士^{はかせ}、ローマの若い修道士^{しゅうどうし}から来たこの手紙^{てがみ}を
読んでくださいよ。彼は自分の命^{いのち}を危険^{きけん}にさらしてまで、
町中^{まちじゅう}で博士^{はかせ}の書いた印刷物^{いんさつぶつ}を配^{くば}っているそうです。



書^かかれたみ言葉^{ことば}が、その仕事^{しごと}をしているのだ、メランヒトン。

印刷機^{いんさつき}を、神^{かみ}に感謝^{かんしゃ}しよう。神^{かみ}の真理^{しんり}を幾倍^{いくばい}にもして
広めるための、神^{かみ}からの最高^{さいこう}のおくり物^{もの}だ！



印刷機^{いんさつき}は、ちょうど1440年^{ねん}に発明^{はつめい}されたばかりでした。

そのころから、ルターはものすごい量^{りょう}の
手紙^{てがみ}やパンフレットや説教^{せつきょう}や本^{ほん}を書き始め
ました。平均^{へいきん}すると、彼は残り^{かれのこ}の生涯^{しょうがい}、2週間^{しゅうかん}に
1通^{つう}の長い文書^{ながぶんしょ}を書いたこと^かになります。
それは、102冊^{さつ}の分厚^{ぶんあつ}い本^{ほん}になりました。



ルターは、祈り^{いの}にも時間^{じかん}を割^さき続けました。

今日^{きょう}は、今までで最高^{さいこう}にいそがしい
日^ひになりそうです。祈り^{いの}の時間^{じかん}を
半^{はん}分にしてはどうか。



その反対^{はんたい}だよ、メランヒトン。

今日^{きょう}は、あまりにもするべきこと^{すべきこと}が
多いから、祈り^{いの}の時間^{じかん}を2倍^{ばい}に
しなくては。



ルターが 神様のために それほども 多くのことを 成しとげたのも、
不思議では ありません。彼は、自分で しようとする 代わりに、
神様に していただいたのですから。

しばらくして・・・

ああ、メランヒトンよ。
ちょうど この 一切れの
肉を 見つめる
犬のように、わたしたちも
祈れたらなあ。犬は、
この 肉に 全神経を
集中させるんだ。

ルター博士。
ローマ法王レオ10世から
お手紙です。

これは 警告だ。謝罪しなければ、
わたしは 破門²されるそう。

法王は、わたしを 反抗者と呼び、説教したり 文書を書くのを 止めると
言っている。神は、わたしに 反対する 者たちを 使って、わたしに 大声を
上げさせようとしておられるのだ！ 信じようと しない 者たちが
うんざりするまで、わたしは 語り、さけび、書かなくては。

² 教会員で いるのを
ゆる 許さないこと。

ゴクリ

たき火を 起こして、この
手紙と、真理を 宣べ伝えたい
宗教の本を、すべて いっしょに
焼きつくしてしまおう。

その夜

真理を 教えない 宗教の本や 書類は、みな さらばだ！

(続く。)

もの がたり マルティン・ルター物語、

だい ぶ
第4部

1519^{ねん}年には、カール5^{せい}世が
ローマ^{こうてい}皇帝に なりました。
カール5^{せい}世は、1521^{ねん}年に
ヴォルムス^{まち}の 町で 帝国^{ていこく}議会^{ぎかい}を
ひら 開くことを 決定^{けつてい}し、ルターを
さば 裁くために、ドイツ^{じゅう}中の
くんしゅ 君主^{こうしゃく}や しさい 司教^{しさい}が
あつ 集まりました。

ヴォルムス^{だいせいどう}大聖堂

マルティン、行くな！
君^{きみ}は 命^{いのち}を
ねらわれているんだ。

いや、行^いかなければ。おく^{びょうもの}病者^{びょうもの}には
なりたくない。わたしは 彼ら^{かれ}の いつわりの
告^{こくはつ}発^{たいこう}に 対^{しんり}抗^{あか}して、真理^{びと}の 証^しし人^{じん}としての
自分^{じぶん}の 責任^{せきにん}を は 果た^はさなくては いけないんだ。
(エゼキエル書3:17-19を参照)

たとえ ヴォルムスにある 家々^{いえいえ}の かわらの 数^{かず}ほどの
悪^{あく}魔^まが わたしを まちう 待ち受けていたとしても、わたしは 行^いく。
真理^{しんり}を あい 愛しているから 行^いくんだ。

わたしは、嵐^{あらし}の ま 真^まただ中^{なか}に お 追^おいこまれているんだよ。

その夜^{よる}

ああ、主^{しゅ}よ。わたしの そばに
た 立^たって、この世の すべての 知^ち恵^えと
たたか 戦^{たたか}ってください。わたしのためでは
なく、あなたのために、永遠^{えいえん}の
せいぎ 正義^{せいぎ}のために、戦^{たたか}ってください。

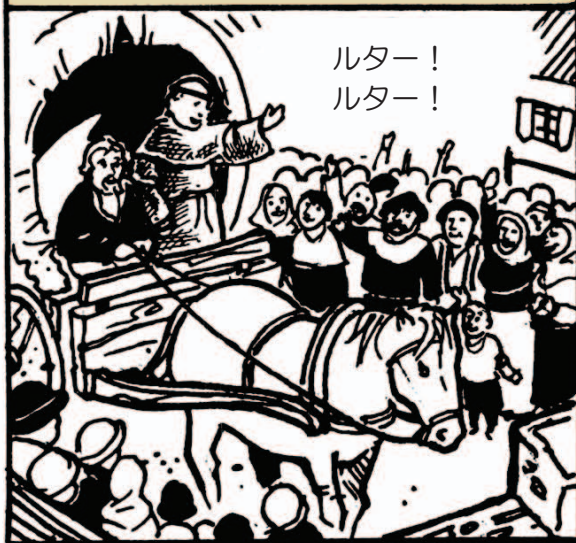
ルターは、ヴォルムスへ ^む 向かって ^{しゅっぱつ} 出発しました。



さあ、^{うた} 歌おう。歌は、わたしたちを ^{げんき} 元気づけてくれる。
そして、神から ^{かみ} 思いを ^{おも} そらさないように ^{たす} するのを 助けてくれる。

ルター^{たち}達はヴォルムスに ^つ 着きました。

ルターは ^ぎ 議会の ^{まえ} 前に ^{すがた} 姿を ^{あらわ} 現しました。



ルター！
ルター！

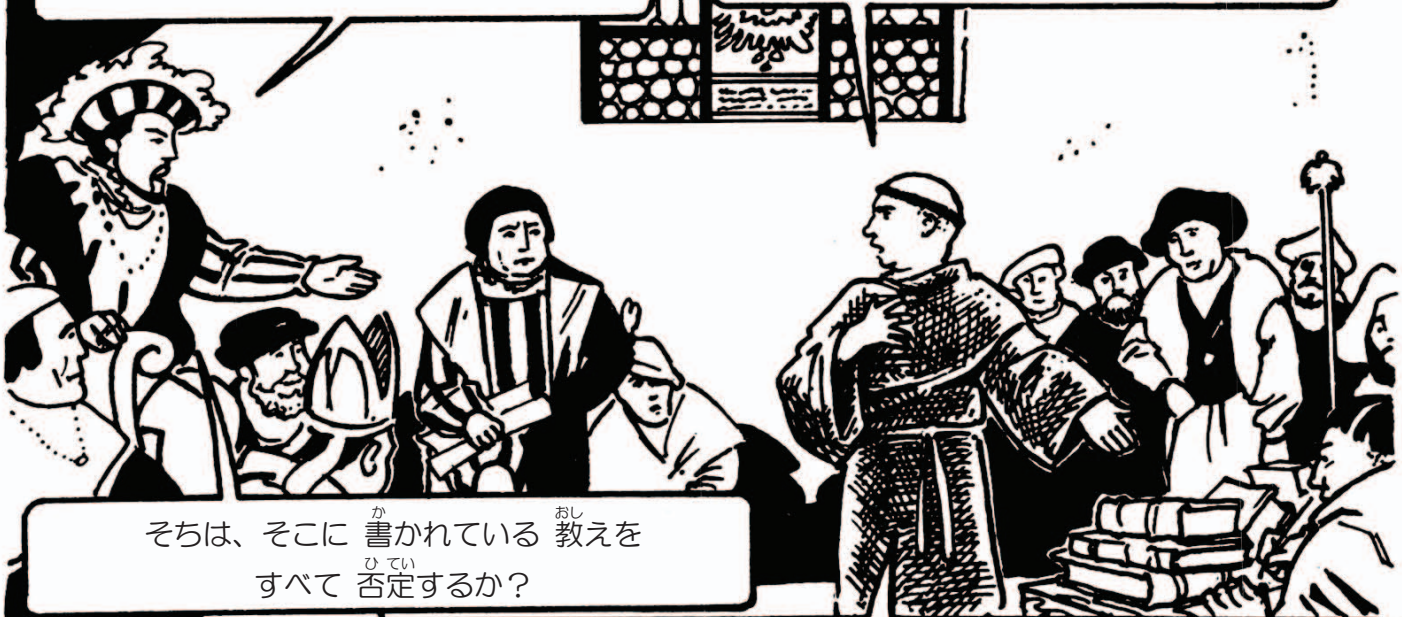


この ^{おとこ} 男が そうか？

さようで ございます、
^{こうていかっか} 皇帝閣下！

そこに あるのは、そちが ^か 書いた ^{ほん} 本か？

さようで ございます！



そちは、そこに ^か 書かれている ^{おし} 教えを
すべて ^{ひてい} 否定するか？

^{せいく} 聖句によって わたしが ^{まちが} 間違っていると ^{しょうめい} 証明されない限りは、^{かぎ} 否定いたしません。わたしは、^{かみ} 神の ^{ことば} み言葉に
しばられているのです。わたしは ^た ここに 立っています！ それ以上の ^{いじょう} ことは できません。わたしは、この
^{しんり} 真理のためには、^{いのち} 命も ^{おも} おしいとは 思いません。それだけは ^{たし} 確かです。神が ^{かみ} わたしを ^{たす} 助けられますように！

それでは、そちをローマ帝国から
追放処分といたす。



その時点から、ルターじてんの命いのちは大きな危険おおきけんにさらされることになったのです。ルターは帰途きとにつきました。



メランヒトン。わたしにはまだ、自分が本当に
したいことをするための時間じかんがないんだ。

それは何だい？

聖書せいしよをドイツ語ごに翻訳ほんやくする
ことだ。普通のふつう人たちは、
ラテン語らてんごが読めない。
それなのに、今はラテン語の
聖書せいしよしかないからね。



それは素晴らしい考えかんがだね、
マルティン。きっと、いつか
そのための時間じかんができるよ。



すると、とつ然ぜん・・・



とまれ！

ルターは、どっちだ？

わたしだ。

かれを連れて
いけ！ 早く！



そして彼らかれは深い森ふかもりの
中へと姿すがたを消けしました。

マルティン！



このうわさは、すぐに
ひろまりました。有名な画家
アルブレヒト・デューラーも、
こんなことを言いました。



何ということだ。もしルターが
死んだのなら、一体だれが、
わたしたちに福音を説明して
くれるだろうか？

ルターは、防備の
固い大きなお城に
連れて行かれました。



このような形であなたを
お助けしなければならなくて、
申し訳ありません、ルター博士。



わたしを助けるだって？

はい、わたしたちはあなたを法王の
手から救うために、
賢公フリードリヒ公爵に
つかわされました。



わたしは、どれくらい
ここにいないければ
ならないだろうか？

数ヶ月、あるいは1年。ですが、博士のしたい
仕事があるのでは？ 今こそ、書き物の仕事を
はかどらせる時ですよ。



聖書か！ 聖書をドイツ語に
翻訳できるぞ。

身をかくしているこの期間は、
疑いもなく神様によって
定められたものでした。

マルティンはここで、新約聖書を、
人々の日常言語であった
ドイツ語に翻訳することが
できたからです。マルティンの
仕事ぶりは、すばやいものでした。
たったの11週間で、マルティンは
その仕事を終えてしまいました。

この時期は、悪魔との
大きな戦いの時でも
ありました。ある夜のこと・・・



ハッハッハ！



見てみる、
マルティン・ルター！
お前の罪の長いリストだ。

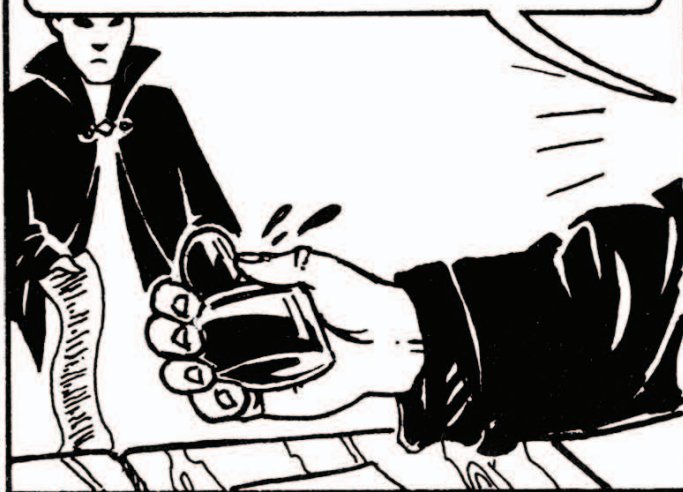


ルターは、その一つ一つをよ読んでみました。

確かにこれは全部真実だが、お前が
忘れていることが一つある。それは・・・



「み子 イエスの血が、すべての罪から
わたしたちを清めるのである。」
(口語訳聖書、ヨハネの第一の手紙 1:7)



サタンよ、イエスのみ名によって、お前を叱責する！



1525年、ルターは、カタリーナ・フォン・ボラという元修道女と結婚し、公爵にあてがわれていた古い修道院で暮らしました。修道院は、いつもルターの話聞きながらやって来る訪問客でいっぱいでした。



ルターには6人の子がいましたが、そのほかにも大勢の子どもたちを養子にしました。彼はいつも、話し、読み、説教していました。そして生徒たちは、彼が言うことをすべて書き留めるのでした。



晩年、マルティン・ルターは病気がちでしたが、それでも最後まで精力的に働き、説教し、旅をし、学校を設立し、書き物をしていました。

心地よいメロディーほど、人の心を落ち着けるものはない。

音楽は最高のおくり物だ。
実に、神聖だ！ 悲しい思いを
すべて追いはらってくれる！



マルティン、一体どうやって孤児をもう一人引き取れるというの？
今ここに住んでいる人たちだけで、うちはもう、いっぱいよ。

心配しなくともよい。養う口が一人分増える
たびに、神もその分供給してくださるから。
その子を連れてくるようにと伝えなさい。



おねむり、ぼうや。わたしには
あげられるような金はないが、
富んでいる神様がいるからね。



ねん がつ にち じゅうじつ いっしょう おく 1546年2月18日、充実した一生を送った マルティン・ルターは、主のもとへ 行きました。

よ ちゅうじつ
良い 忠実な しもべよ、よくやった！
しゅじん よろこ
主人と いっしょに 喜んでくれ。
こう ご やくせいしょ ふくいんしょ
(口語訳聖書、マタイによる福音書 25:23)

イエスよ、感謝します。

お
終わり

作者：サイモン・ピーターソンとデービッド・B・バーグ 絵：ジェレミー デザイン：クリスティア・コーブランド

出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2012年、ファミリーインターナショナル

"The Story of Martin Luther, Part 4"--Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/level-1/2012/5/23/the-story-of-martin-luther-part-4.html>